
指が震える

west code

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
指が震える

【Nコード】
N2240V

【作者名】
west code

【あらすじ】
引越してきたのは、まさに「天才」だった。
でも彼女は、誰にも言えない悩みを抱えていたんだ。

立場が違っても
待ち受ける未来が違っても
想いが一緒ならいいじゃないか――

俺の声は届くだろうか。

プロローグ

俺の声は届かない

必死で喚いて

必死で叫んで

でも、届かない――

「……………はあっ…………… きつつ」

立漕ぎの脚を思わずとめそうになる。

澄み切ったスカイブルーの空。それに映えるやけにでかい入道雲。燃え盛る太陽。うるさすぎるセミの鳴き声。

「ああ…………… あとちよつと」

体中から汗が噴き出している。気持ち悪い。

「ああああー！！！」

それでも気合で坂を上りきった。

それにしても、何が楽しくて夏休みの最終日まで塾に行かなきゃいけないんだろうか。

いつだって大人は勝手だ――

坂を上りきってしばらく直進。二つ目の曲がり角で左に曲がる。そこからまた、直進。あと200メートルくらいだろうか。左には公園、右には住宅地が広がっている。

ふと、自転車を漕ぐ足を止めた。

「ここは……」

この辺の地理なら体が覚えている。確か2日前までは空き家だった。決して広くはないがおしゃれな洋風の造り。窓の位置から察するに、一階建てだ。小綺麗なガレージには、いかにも高そうな外車が停まっている。

家の中からはピアノを弾く音が聴こえた。

「あれ、これなんだっけ……。そうだ、『月光』だ」

クラシックなど少しも興味はなかったが、さすがに知っていた。

でも、なんか変だ。

始まったと思ったらすぐ止まる。また聴こえる。またすぐ止まる。その繰り返し。

別に上手か下手かなんてわからない。でも何か引っかかった。

何だろうこの引っかかるものは。

まるで――

「ゴオオオオオー……」

飛行機の轟音でピアノの音が聴こえなくなる。ふと我に返り、慌てて携帯電話を取り出す。

「やべええー！ー！」

遅刻ギリギリの時間だった。いつの間に聴き入っていたんだろう。

帰りに表札を見た。風峰さんだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2240v/>

指が震える

2011年10月9日01時09分発行